

貧富二極化拡大で急増中

会に転落する!

「いつかはクラウン」から「毎日100円ショップ」の時代へ……。そんな言葉に象徴される、就職もできず結婚もできないが、とりあえず不満はないという人々。今、我が国にそんな新しい階層が増えている。名付けて「下流社会」。小泉内閣が確信犯的に取り組んできた「弱者切り捨て政策」の末に増え続ける下流層に、すでにあなたも、あるいはあなたの子どもも陥ってはいないだろうか。

“一億総中流社会”は すでに崩壊している!

朝の駅前。パチンコ店の前には、平日でも開店を待つ若者たちの長蛇の列ができる。コンビニで買ったおにぎりを頬張る者もいれば、うつろな目線でタバコを吹かす者もいる。その誰もが無精ヒゲを生やし、身なりはだらしない。

その横を『日経新聞』と高級ブランドのバッグを小脇に抱えた仕事のできそこな30代半ばのキャリア女性性が、颯爽と駅に向かって足早に通り過ぎる。

「この情景こそが、日本の

“現在”を象徴しているんです。高給を手に優雅な生活を送る一部の上流層が生まれてくる一方で、パチンコ店の開店に並ぶ人たちのように、定職を持たず、従って収入も低い階層、つまり下流層が増大している。もはや、一億総中流といわれた社会はすでに崩壊しているんです。

そう語るのは、マーケティング・アナリストの三浦展氏。三浦氏は、著書『下流社会』新たな階層集団の出現（光文社新書）で、そんな社会を「下流社会」と命名。著書は大きな反響を呼び、早くも30万部を超すベストセラーとなっている。

「将来のために今を犠牲にするなんて、今を楽しそうに生きることを大事にしよう。自分らしく生きるために、あえ

て就職はしません」。

最近、若者がこんな風に話すのを聞いたことがないだろうか。リストラの恐怖に怯えるくらいなら、こういう楽な生き方もいいな……などと感心していたら大間違いだ。ましてそれを口にしたのがあなたの子どもなら、危険信号と受け止めなければならない。

三浦氏は様々な調査の末に「下流社会」住人の習性を次のように導き出した。

「単に所得が低いということではない。コミュニケーション能力、生活能力、働く意欲、学ぶ意欲、消費意欲、つまり

ズ人事に騙されるな



小泉・竹中ラインが生み出した あなたも「下流社」



《緊急レポート》

無気力に地べたに座って過ごす、また、定職に就かずパチンコ店の開店前に並ぶ……いずれも下流層の象徴だ

総じて人生への意欲が低い。

加えて、政治や経済に対する意識や理解が未熟なものの特徴のひとつです」（三浦氏）

だが、そんな彼らを生み出したのは、間違いなく小泉純一郎首相と竹中平蔵経済財政担当大臣の「小泉・竹中ライン」による経済政策である。

慶応大学経済学部教授の金子勝氏が解説する。

「企業が潤うことで経済が活性化するという方針のもと、

資産家所得には減税、雇用者

所得には増税を課した。つまり、企業減税は放置したままサラリーマンには増税を課す

うとしている。弱者を切り捨てていくのが、小泉・竹中改革の真実なんです」

結局、大企業と資産家はますます潤い、サラリーマンの生活はますます苦しくなるだけ、と金子教授は続ける。

「上流と下流の二極分化は日本のグローバル化（国際化政策）が本

格化した20世紀末からすでに始まっていた。経団連が95年に『新時代の「日本の経営」』というリポ

ートを発表しましたが、その中で今後の雇用形態を3つに分類していま

す。将来の幹部候補生である正社員、高度な特殊技能を

持つ有期契約社員、マニュアル通りに働くだけの派遣社員やアルバイト

内閣改造・サプライ



トです。その上で効率最優先の能力主義を徹底すべし、と提唱している。金融危機が本格化した97年以降、非正規雇用者の数が劇的に増えるのも当然の結果です」

事実、内閣府が発表した01年の『国民生活白書』によれば、フリーターは417万人と過去最高。その中には、そろそろフリーターを卒業したいのにできない、30代フリーターも多く含まれている。

もうひとつ、「階層分化を促しているのは、近年の知能社会化である」と指摘するのは作家の堺屋太一氏。「知能

二極化社会での下流層の出現・拡大については多くの識者が指摘する（左から金子勝氏、堺屋太一氏、森永卓郎氏、山崎元氏）

2005. 11. 11

週刊ポスト

世代別・男女別階層意識

団塊ジュニア	男	12%	40%	48%	下
	女	17%	52%	31%	
新人類	男	16%	48%	36%	下
	女	13%	52%	35%	
団塊	男	14%	48%	37%	下
	女	13%	58%	29%	
昭和ヒトケタ	男	9%	56%	34%	下
	女	14%	67%	18%	

資料：カルチャースタディーズ研究所＋
(株)イー・ファルコン「欲求比較調査」2004団塊ジュニア(男)の下
流意識は48%！下流社会
は確実に拡大している

社会とは氏の造語で、金融、コンサルティング、技術開発、デザインなどの知能創造が主に経済を牽引する社会のこと。

「知能社会においては、知能創造力を持つ人と持たない人とは必然的に所得格差が広がります。都市社会の中心に知恵を持つ1000人が存在し、その脇に直接サポートする1000人がいて、さらにその周囲に1万人が関連業務で働いている。そして、それだけの人々を支えるには10万人の都市運営者がいる。ごくわずかなピラミッドの頂点と多数の底辺との格差が広がるのは当然です」

自民党に投票するという矛盾

「こうした社会構造はまさに小泉首相が望んだこと」と指摘するのは、経済アナリストの森永卓郎氏。

「小泉改革が階層の二極分化を生むことは最初から分かっていたこと。他国の歴史が証明していますから。例えば、80年代、イギリスでサッチャー政権が経済効率優先の政策を取った結果、中産階級が崩壊し、カーテンレールすら買えない下流社会の住人が増えた。同様にアメリカでも、80年代に中流から下流に落ちる人が続出した。これがわかっていながら改革をやるのだから、確信犯ですよ。」

85年のプラザ合意以降、急激な円高による一時的な不況を経てバブルが始まり、自分さえよければいいという社会風潮が広まりましたが、階層格差が拡大した今、その風潮はさらに広まっています。つまり、政治が「下流社会」を生んだわけである。

の社会モデルに近づきつつある、というのである。

だとすれば、「下流社会」の住人は怒りの拳を振り上げてしかるべきなのだが、現実はその反対。その象徴が、小泉自民党の歴史的な大勝に終わった先の総選挙である。三浦氏がいう。

「都市の無党派層が自民党に投票したと分析されましたけど、実はフリーター層です。正社員になれないのは小泉改革のせいなのに、フリーターがそれを支持したんです」

そんな矛盾が起きている心理構造について、前出・金子氏も次のように分析する。

「下流層の人は自分を小泉改革の犠牲者だと気付いていない。現状を打破するためには小泉改革でも何でもいいと考えている。そして、改革という美名に踊らされているだけだということに気付いていない。もはや弱者は踊りながら殺されていくだけなんです」

三浦氏は『下流社会』を執筆するにあたり、04年から05年にかけて「昭和4世代欲求比較調査」なる調査を行なった。

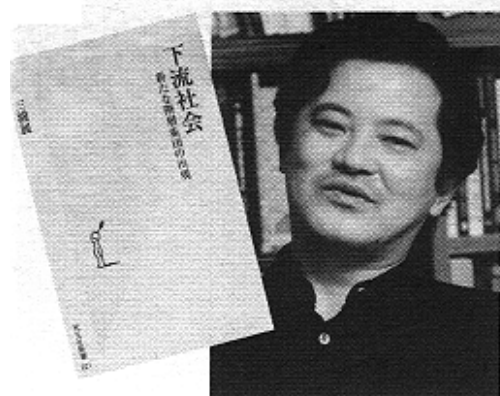
すると、「団塊ジュニア世代(71～75年生まれ)の男性では、48%の人が「自分の生活水準は下である」と答えた(上表参照)。この割合は他の3世代「新人類(61～65年生まれ)」「団塊(46～50年生まれ)」「昭和ヒトケタ(31～37年生まれ)」に比べて最も高い。今の20代を調査すれば、その割合はさらに高くなるはず。つまり、三浦氏がいう下流とはどんなものなのか、もう少し具体的にみてみよう(以下、データは「団塊ジュニア」世代の男性への調査から)。

もはや年収500万円以下は結婚できなくなる

例えば、「生活の中で大事にしていることは？」という質問に対し、階層意識が「下」の人間の41.7%が「個性・自分らしさ」と答えた。「上」では25.0%にすぎない。「個性・自分らしさ」にこだわる

まりあなたの子供の世代ほど、下流化傾向が顕著なのである。

11月2日の内閣改造では、いくつかのポストで小泉流の「サブリイズ人事」が予想されている。だが、小泉・竹中ラインが温存されることは確定的で、小泉首相は「自分の後継にも改革を継承してもらいたい」とも述べている。だとすれば、貧富の二極分化はますます加速する一方で、この先、あなたの子供が「下流社会」の住人になっていく可能性は高い。



『下流社会』著者の三浦辰氏

あなたは「下流社会」自己診断シート の住人か?

監修：三浦展氏

- ☐ 早寝・早起きができない
- ☐ 朝ごはんはあまり食べない
- ☐ 昼食がコンビニのおにぎりのことがある
- ☐ ファストフードをよく食べる
- ☐ 働くのが嫌いだ
- ☐ 将来の目標がない
- ☐ 生きるのが面倒くさいと思うことがある
- ☐ 定年が待ち遠しい
- ☐ 休日に無精ヒゲのまま街に出ることがある
- ☐ 日曜日の夕食が宅配ピザのことがある
- ☐ 最近、電車の中で見知らぬ人と口論した
- ☐ 新聞・ニュースへの興味が最近薄れている
- ☐ 机の上が散らかっている
- ☐ 背筋が曲がっているといわれたことがある
- ☐ 息子がフリーターだ

※15項目中、8個以上当てはまる人は「下流」の恐れあり!

あまり、正社員になることを嫌い、上昇志向も持たなくなっているのが下流階級の典型的な傾向だという。

村上市彰氏(村上ファンド代表)らヒルズ族を金持ちだとは思っても、自分の理想像だとする人は少ないでしょう(三浦氏)



「彼ら下流社会の住人に上昇志向がなくなるのは、食べる、寝るといった最低限の生活が保証されているからです。しかも、今の時代は『こういう人になりたいたい』というモデルもない。」

堀江貴文氏(ライブドア社長、三木谷浩史氏(楽天社長)、

「下流の無限連鎖」が始まる

三浦氏は下流階級の増大はすなわち「自国内移民」の大量発生だという。そして、その「自国内移民」は同時に「結婚難民」でもあるという。

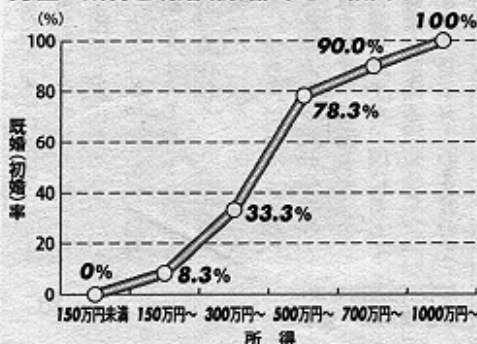
「団塊ジュニア」男性の既婚率は、階層意識が「上」の層では66・7%に対し、「下」では22・9%にすぎない。男性の所得と既婚率の間には明確な相関関係があり、年収500万円が大きな分岐点になっている。つまり、「下流」

浦氏) また、「生活の中で大事にしていることは?」という質問には、「活動的・アクティブ」と答えたのは、「上」では33・3%であるのに対し、「下」では16・7%と低い。ここから浮かび上がってくるのは下流階級のひきこもり傾向だ。

実際、それは他の項目の調査結果にも明確に表れている。「テレビゲーム」を趣味としているのは「上」では16・7%、「下」ではなんと43・8%だ。三浦氏はパソコンのP、プレイステーションのPに、ページャー(小型の液晶端末にデータを送る移動通信システムで、携帯電話もそのひとつ)のPを加えた3Pを「下流社会三種の神器」と定義している。

ここまで読んで「自分も思い当たるフシがある」と不安になった読者のために、三浦氏監修のもと下流社会の住人か否かをチェックする「自己診断シート」を作成した(左上表参照)。今すぐチェックしてほしい。該当する項目が多いほど危険である。

男性の所得と既婚(初婚)率との相関(既婚率割合)



資料：カルチャー・スタディーズ研究所+(株)イー・ファルコン「欲求比較調査」2004

年収300万円代と500万円代とでは既婚率に大差!



入増加のためにスキルアップしようと思っても、ままならない。
「英会話ひとつとっても、正社員には会社が研修を施してくれるし、自腹で学ぶにしてもカリキュラムや講師陣がしっかりした英会話学校に通える。でも、金のないフリーターはNHKのラジオ講

座を聴くしかありません」(三浦氏)
また、当然のことながら、下流層は子供をもったとしても、子供の教育にあまりお金をかけられず、質の高い教育は望めない。結果として、下流の子供は下流になる可能性が高い。下流の無限連鎖が始まるのである。

このように、いったん下流に転落すると全ての条件が悪化し、中流に復帰するのは極めて困難になってしまうのである。
現実から逃避したがる若者は「自由に生きたいからフリーターでいる」などといういまが、現実には経済的、時間的に余裕がなく、あくせく働かされるだけ。しかも、30歳近くになって「やりたいことが見つかった」といっても、その年齢まで就職したことのない人間をまともな企業は雇ってくれません。逆に、小さな会社でもいいから就職すれば、それを経歴として履歴書に書くことができ、実績として社会に評価され、次の就職にもつながります」(三浦氏)

「個性や自分らしさを大切にしたい」、「自由に生きたい」、「やりたいことを探したい」……子供にこういわれると、即座に否定して反発されることを恐れ、つい「理解ある親」を演じてしまう親が多い。
親が定職を持っていれば、子供1人ぐらいの面倒は見られると甘くなり

がちだが逆にいえば、フリーターやニートの増大は、そうした親にも責任があるのだ。「一方で、親である自分自身の生活もよく見直したほうがいい。食生活や、生活習慣、態度など、知らぬ間に自分が下流に堕ちていけば、あなたの家族はみな下流社会の住人になります」(三浦氏)

三浦氏はまた、国に対しても対策を求める。「今のフリーターの3分の1

階層格差は固定化せざるを得ない。

「フリーターで一番問題なのは生活時間。時給がいいからといって夜のバイトをしようと、なかなか普通の生活には戻れない。また、挨拶の仕方、名刺の渡し方といった基本的なビジネスマナーを学ぶ機会もないし、責任感も育たない。生活スタイルがフリーター独自のものに染まり、社会人としてのモラルも欠落してしまふんですね。その結果、フリーターはフリーターしかできなくなってしまう」(三浦氏)

仮に本人に意欲があり、収

子供を「下流社会」の住人にしないための処方箋

若い世代、つまりあなたの子供の世代はどうした時代の波に間違ってなく飲み込まれる。老後は子供に面倒を見てもらおうなどと期待したら、痛い目に遭う。死ぬまで子供の面倒を見なければならぬのは、あなたかもしれないのだ。子供が「下流社会」に転落すれば、親である自分も「下流社会」の住人になるのは間違いない。

では、子供を「下流社会」にしないための処方箋

団塊ジュニア男性の所得別家族形態

	150万円未満	150万円～299万円	300万円～499万円	500万円～699万円	700万円以上
1人暮らし	28.6%	33.3%	22.2%	13.0%	0.0%
夫婦2人(共働き)	0.0%	0.0%	4.4%	8.7%	61.5%
夫婦2人(妻は専業・パート)	0.0%	8.3%	11.1%	17.4%	7.7%
夫婦と子ども(共働き)	0.0%	0.0%	6.7%	4.3%	0.0%
夫婦と子ども(妻は専業・パート)	0.0%	0.0%	8.9%	43.5%	30.8%
本人と子ども	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
親と同居(本人未婚)	71.4%	50.0%	33.3%	4.3%	0.0%
3世代(親、本人、子ども)	0.0%	0.0%	4.4%	4.3%	0.0%
3世代(本人、子ども、孫)	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	6.7%	4.3%	0.0%

資料：カルチャースタディーズ研究所(株)イー・ファルコン「欲求比較調査」2004



あなたの子供をよく観察することが大切

「団塊世代の定年」で本格化

もちろん、こうした意見の一方で、中流に上がろうとものがくのではなく、「たとえ下流でも、価値観を変え、主観的に自分は幸福だと思えば

は、本当は正社員になりたいのに、企業の採用枠が狭いために弾き出されてしまった「非自発的フリーター」であり、一石二鳥です」

り、「潜在的な正社員」です。

彼らに対して正社員養成所、職業生活訓練所のような機関を国が作るべきでしょう。雇用形態はアルバイトでも、正社員と同じような訓練を受けさせ、正社員との間に社会人としての差が出ないようにする。リタイアした団塊の世代に部長、課長といった上司役になってもええ、これから大量に出現する定年退職者の雇用確保にもつながる、一石二鳥です」

いい」とする意見もある。前出の堺屋氏もそのひとりだ。「従来の近代工業社会においては『幸せ』の度合いは物財の数量で表わすことができた

んです。洋服を10着持っているから幸せ、2着しか持っていないから不幸せといったように、客観的な指標があった。しかし、新しい知能社会においては『幸せ』は客観的な数量ではなく、本人の主観的な満足感で測るもの。高所得ならば幸せ、ブランド品に囲まれば幸せという人もいれば、ハンバーガーを食べ、100円ショップで買った物で暮らしていても好きな仕事をするのが幸せという人もいます。現実の生活環境に自分の希望を合わせる、つまり希望を1段階下に合わせて生き方も出てきたんです」

また、「下流社会」といっても飢えるほど貧しいわけではない。何らかの仕事で収入を得ているという点は、上流

も下流も変わらない。「ならば、一発逆転も可能」という人もいる。楽天証券経済研究所客員研究員の山崎元氏だ。「マクロ的に見れば、中流が下流に転落し、一部の上流との差が大きくなっていることは確かです。しかし、個人レベルで見れば、形勢挽回は決して困難ではない。今は40歳を超えても転職は可能だし、転職が多くてもマイナスにならない。実際、私も12回も転職しています。また、法律や環境が変わり、夢物語だった起業や株式上場が格段に容易になった。下流から一気に上流へと上昇するチャンスも増えているんです」

確かに、「1000億円稼いだ」ホリエモンこと堀江氏も、

元は東大といええ大学中退の、世間的にはフリーターだった。とはいえ、次のような前出の金子氏の警告にも心して耳を傾けておくべきだろう。「現在のフリーターやニートの親である団塊の世代が多数定年退職する07年頃になって、初めて本格的に中流社会は崩壊する。その時になって慌てても遅いのです」

将来を楽観視するのも、過剰に不安がるのも間違いだ。小泉政権の改革の名のもとに推し進められる政策の是非を見抜き、それと同時に自らの状況を観察することが肝要。もし自分の下流化傾向に気付いていないとしたら、今からでも遅くはない。「下流社会」に転落する前に対策を急ぐべきだろう。